

前原横渚海岸周辺に係る課題等アンケート取りまとめ

1. 前原横渚海岸周辺の現状について、どのような感想をお持ちでしょうか。

鴨川市観光協会 鈴木健史委員

サーファー等の一部の趣味の人たちを除きますと、単に眺める海岸にしかなくなっていないと思います。人が集う仕組みができておらず、非常に勿体無い状態がずっと続いています。海水浴は高度成長期の時代の娯楽のひとつでありましたが、昨今は娯楽の多様化や海水浴自体の魅力の低下によって海水浴客は減少しています。これは鴨川に魅力がなくなったのではなく、海水浴に魅力がなくなったからであると理解します。(私の息子も小さい頃「海水浴は砂がパンツに入り気持ちが悪いので嫌だ」と言っておりまして。しかし、プールは楽しんでいます。海水浴離れは時代の流れであります。)

海岸線は観光素材としてのポテンシャルは高いのですが、海水浴をメインとする在り方が時代遅れになっています。海水浴を楽しむのではなく、ビーチを楽しむ方向性へシフトすべきです。

更には、ヨットハーバーが完全に海岸線と分離してしまっており、海岸線の流れに溶け込んでなく、分断されたエリアになっており、町のブランディングに貢献していないのも非常に勿体無いと思います。これはフィッシャリーナが単なる空き地になっていることも大きな原因のひとつです。

市場はお洒落なものに心を揺さぶられます。現状の前原横渚海岸はお洒落ではありません。都会の人口が上質な日常を求める反面、現在の前原横渚海岸は昭和の時代からその商品力は変わらず、景色以外の魅力は乏しいと感じます。「上質な日常」に都会人は憧れます。現在の前原横渚海岸については、眺め以外の特質すべき魅力がなく、決して上質な日常を提供しておりません。別府温泉はかつて一大リゾートでありました。今は元気がありません。自然に湧き出る温泉にあぐらをかき、工夫と市場との対話を怠ったからです。今やお洒落な湯布院や黒川温泉に人は流れています。存在する自然にあぐらをかいていと落ちますし、お洒落・素敵な感性という感覚を取り込まないと現代の市場からは見捨てられます。従って、「眺める海&海水浴の海」というこれまでの在り方を見直して、「通年人が集積する海岸づくり、上質な日常」を海外の事例を参考に実現してゆかねばならないと考えます。

また、マリーナからマルキポイントに至る海岸線を統一された構想で再開発するという発想が必要だと考えます。

鴨川市観光協会 藤巻武仁委員

- ・駐車場整備が必要。
- ・観光客の食事場所がない。
- ・海岸付近にある公園の整備はきちんとされているか気になる。
- ・海岸はテトラポットがあるため砂浜が広がった。
- ・駅と海岸が近く、駅から海へは気軽に行けるが、駅前には申し訳ない程何もなくて観光地えとは言えない状況。(既存の建物、業種に問題あり)

鴨川市商工会 清水宏委員

- ・「鴨川市の海浜リゾート地?としての顔」であるが、魅力に欠ける。
- ・「渚百選」「日本のサーフィン発祥の地の一つ?」「房総のハワイ?」等の呼び声の割には、周辺のアプローチを含めた整備がなされておらず、ブアーである。

- ・立地条件としての関連施設の充実、利便性、統一性等の総合的なバランスが取れていない。
- ・地域住民(市民)が個人的にも組織的にも積極的に関わって環境美化・保全整備や来訪者に対しての情報発信・人的な交流がなされていない。(地域の宝として)
- ・通年イベントの会場としての利活用に止まっており、市民の日常にもっと活かす知恵と努力に欠けている。

鴨川市商工会 福田雄一郎委員

- ・年々、海水浴客も減り、以前の賑わいに比べると大分寂しい

鴨川市漁業協同組合 徳山英樹委員

前原海岸は砂浜も広く、近辺ではこんなに綺麗な海水浴場は無いのに、守屋海岸や御宿海岸の方が海水浴客が圧倒的に多いように感じる。

トイレ、シャワー等公共施設が無料で利用出来るのに観光客が少ない。海岸周辺は夏以外観光客を見かけない。

どこもそうだが商店街は人が歩いてなく寂しく感じる。

鴨川温泉旅館業協同組合 久根崎達郎委員

前原横渚海岸は、渚 100 景にも選ばれ、海水浴場としても夏は賑わいを見せるが、その期間外は、普通の浜辺のイメージ。特に冬場は閑散としているのが現状と思われる。

鴨川市民の散策の場。

鴨川ライフセービングクラブ 水谷好伸委員

- ・ゴーストタウン 過疎地域
シャッター通り
ジジババタウン

鴨川シーワールド 齋藤哲二委員

- ・前原横渚海岸は「日本の渚百選」に選ばれる程、美しい海岸ですが、反面 海岸周辺の賑わいは少ないと感じます。特に海水浴シーズンは一般のお客様は多く見受けられますが、海水浴シーズン以外になると一般のお客様（観光客）を見かける機会が少なく感じます。

鴨川青年会議所 菅原明善委員

私は鴨川で生活を始めて4年目になります。以前は仙台市を拠点としており、生家は塩釜市にあります。塩釜市は日本三景のひとつの松島の隣という海と山に面した自然の多い環境です。その松島の景観も以前に比べると美しく舗装され、まさに「観光地」です。震災の影響とは関係なく、それ以前から工事は竣工しておりました。見た目が一番変わった部分は「遊歩道」の整備です。松島湾を一望できる遊歩道がしっかりと「動線」の役割を果たしていると感じます。感想としては、まちづくりの趣旨が分かりやすいと言えると思います。目的がはっきりとしていて、尚かつ美しい。海岸通りが観光客を迎え入れる準備ができていく感じがします。五食堂もさることながら、朱塗りの福浦橋は観光スポットとしては打

って付けです。

鴨川も松島に負けないくらいの海があり、自然があります。ただ PR が足りていないと感じます。海岸沿いにシンボルとなるようなものも無い。ヤシの木で南国の感じは出ているとは思いますが、更にもう一歩必要だと思います。

鴨川ライオンズクラブ若獅子支部 立野健児委員

前原海岸やシーワールドは TV 等でも多く取り上げられ、知名度も高いと思います。その反面、海岸への車でのアクセスがわかりづらいと思います。国道や県道から海岸へ行くのに通りが複雑な旧市街地を通らねばならず、又、駐車場も少なく、夏場のマリーナ駐車場も少なく、夏場のマリーナ駐車場も少しわかりづらいと思います。一方通行のマリンロードを逆走している車もたまに見かけます。

鴨川サーフィングクラブ 川井幹雄委員

テトラポットが美観を損ねている。せめて一番右側（フィッシャリーナ）のテトラを除去してもらいたい。

子供たちや初心者に適した波になるので！！

鴨川市健康づくり推進協議会 村永信吾委員

鴨川の海岸線は印象的。

海は太平洋の雄大さを感じる。

日本で初めて初日の出を見ることができる海岸。

魚見ヶ岳から見る海岸線は魅力的。

鴨川漁港の先端からホテル群を眺めると海側から波が陸側に迫る感じで迫力がある。

一方、

海岸へのルートが狭く、わかりにくい

駐車場が少ない（海岸線への路上駐車）

最近整備されていないためアリーナなども寂れた印象

砂浜が最近減少している印象がある。砂浜が今後減少しない対策が必要

鴨川ガイド協会 原田洋美委員

日本の渚百選に選定されたものの、鴨川を代表する観光スポットとしての海水浴場としては、物的環境面において中途半端さを感じる。

まずは、駐車場について、観光客にとって駐車無料というのは大変ありがたいこと。また、現在の無料駐車場は海水浴場の目の前である。海水浴に来る観光客は荷物が多い。その人たちにとって近くに駐車場があるのは、非常にありがたいことだと思う。しかし、鴨川においてはそんな駐車場が少なく感じる。また、防犯上駐車場には管理者が必要だと感じる。防犯面への配慮も考える必要あり。駐車場の完備は遠方からの観光客にとって大きなプラスになると思う。

ワシントンヤシやガス灯風の街灯が雰囲気盛り上げる南国風の遊歩道だが、路上駐車増加により自由な行き来がしづらい。また、現在のお店はサーファー向けのお店が多く、一般客にとっては入店しづらく、また入ったとしても違和感を感じる観光客も少なくないようである。また、バスや電車などの

交通公共機関を利用して鴨川へ海水浴に来る観光客にとって、駅からのまっすぐな道はこれからの海水浴を楽しみに感じさせる大切な道だと思う。現在の道を振り返ってみると海水浴、レジャーを感じさせる雰囲気はほぼ皆無だと感じる。安房鴨川駅からの道の整備も必要なことと感じる。

防犯安全性については、警察との連携も必要だと感じる。通年ではなくとも、例えば「前原横渚海岸夏季駐在所」などとして、海水浴シーズンの時にだけ駐在所を設けたり、パトロールの強化を図ったりして観光客の安全が守られる環境づくりも必要ではないだろうか。

君津の「濃溝の滝」が有名になったように、今の世の中にとって SNS の影響力が大きいのは間違いない。これを使わない手はないと考える。魅力ある情報（写真・イベント情報・動画）の発信の充実・拡大も必要ではないかと考える。

城西国際大学観光学部 渡辺淳一委員

高台から見た海岸は、非常に魅力的である。しかし、夏の海水浴以外の春秋冬において楽しめるようになっていないように思う。

城西国際大学観光学部 内山達也委員

海水浴場としてのイメージはあるが、鴨川市が目指す「リゾート」、「癒し」のイメージは浮かび難い。海岸プロムナードの防波堤に立つと、海岸の美しさに惹かれるが、海岸沿いの道に車が止められていたり、市民会館やプール、駐車場の老朽化の印象も残ってしまう。また、駅前から続く商店街の多くは古く寂しい印象がある。

文理開成高等学校 鈴木淳委員

雄大な太平洋の大海原に海岸線と街並みが緩やかな弧を描いて流れている光景は、まさに風光明媚と言わずして何と言うかと思うほど素晴らしいものです。

特に、前原海岸から眺める北方面の景色は、ハワイのワイキキ海岸から見るダイヤモンドヘッドを彷彿させるような素晴らしいものだとも思います。

また駅から近いということも大きな利点となっていると思います。

それだけに、現状の以下の点については残念な気持ちがしています。

- ・海岸線に目を向けると、その顔となるべき各施設・建物には老朽化が著しいものが散見され、寂しい雰囲気がぬぐえない（これは本校の校舎も含めてですが）
- ・海岸近いエリアに目を向けると、ボロボロになった小さいアパートや廃墟のような建物が多く見られ、更には産業廃棄物施設が大きな面積を占める等、人が集積する明るいイメージには程遠い雰囲気を醸成している

地域おこし協力隊 橋詰良子委員

閑散としたイメージ（反面、ゆっくりしたい人には抜群に良いと思いますが）。海岸沿いにサーファーの姿はあるものの、一步奥まった商店街は人通りが少なく、寂れ感が否めません。また、海岸のお手洗いの清掃が行き届いていないなど、最低限の整備がされてない印象が寂れ感を助長しているように思います。

安房土木事務所 吉田良治委員

前原横渚海岸は通年を通し、鴨川市及び鴨川市観光協会により海岸清掃が行われ、美しい砂浜が維持されている。

新町通り周辺については、ほとんどの商店がシャッターを閉め閑散としている。

2. 鴨川市全体を見渡した時に、前原横渚海岸周辺はどのような立ち位置にあるとお考えでしょうか。

鴨川市観光協会 鈴木健史委員

鴨川の観光の一大ポイントになり得る場所だと考えます。飛騨の高山など、町並みが統一されている魅力は大きな観光資源になります。鴨川で統一したイメージを作り出せる数少ないダイナミックな場所だと考えます。

本町通りや新町通りのシャッターを開けさせるためには、まずは可能性の一番高いエリア、即ち前原横渚海岸の町づくりを成功させることだと考えます。ここに人が集積し出せば、自ずとシャッターは開いてゆきます。マーケティング論では、「弱い場所に力を注ぐのではなく、強い場所に力を注ぎなさい。そうすればその裾野は自然に埋まる。」と言われています。そういう意味では、前原横渚海岸の町づくりの成功はその裾野を埋める大元であると位置づけます。

鴨川市観光協会 藤巻武仁委員

・鴨川市の重要な観光地であり、観光客のほとんどはサーフィンやマリンスポーツ、磯遊び目的で来ていると思う。そのため、海岸周辺は最も観光客が集まる印象が強い。

・鴨川の表玄関であり、顔。

ヤシの木の生えた海岸はとてもリゾート感があり魅力的だと思う。

鴨川市商工会 清水宏委員

・鴨川市の交通・商業・観光・海浜リゾートの中心地域。

・来訪者と居住住民の交流が図れる魅力の溢れた鴨川市の窓口。

鴨川市商工会 福田雄一郎委員

・鴨川駅を降りて真っすぐ先にある鴨川の顔

鴨川市漁業協同組合 徳山英樹委員

・鴨川市の重要な観光拠点

鴨川温泉旅館業協同組合 久根崎達郎委員

浸食はありますが、湾曲した眺望の良い海岸であり、鴨川市=海。

鴨川市の売りの1要因。

鴨川のイメージを代表する場所であり、四季を通して人が集まる中心となるべきと考えます。

鴨川ライフセービングクラブ 水谷好伸委員

・本来であれば鴨川市の顔

鴨川市の中心地でなければならない 地域

鴨川シーワールド 齋藤哲二委員

・安房鴨川駅からも徒歩 5 分と近く、鴨川を代表する海岸と認識しております。
また「サーフィン発祥の地」として、サーファーの間では有名な海岸ですが、一般の観光客には認知度は低いかと思います。

鴨川青年会議所 菅原明善委員

まさに鴨川のメイン。海なくしては鴨川ではないと思います。
花火大会やイベントだけではなく、前原横渚海岸を中心としたまちづくりが必要だと思います。

鴨川ライオンズクラブ若獅子支部 立野健児委員

鴨川の観光の表玄関であり、顔であると思います。
車で海岸へのアクセスや鴨川駅から海岸までの通りをもう少し、華やかにした方がいいのではないかと思います。

鴨川市健康づくり推進協議会 村永信吾委員

・鴨川の顔であり、鴨川観光の出発点。

鴨川ガイド協会 原田洋美委員

花火大会、シーフェスタなどのイベント時においては、集客人数No.1 であり、鴨川といえばやはり「海」のイメージは強い。だからこそ力を入れる必要がある。

城西国際大学観光学部 渡辺淳一委員

駅に近く海岸と旧市街との融合による魅力ある地域づくりが行える潜在力があると感じる。鴨川市全体の都市計画でのこの地域での位置付けの検討がもちろん必要であるが、ある意味鴨川市らしいまちづくりが行える場所であり、鴨川市が自慢できる地域のへその役割を担うことができると思う。

城西国際大学観光学部 内山達也委員

鴨川市内の他の海岸とは異なり、広く美しい砂浜のある前原横渚海岸は、鴨川市の顔となる海岸であると感じている。「癒しのリゾート鴨川」を体現できるような海岸線になってほしい。

文理開成高等学校 鈴木淳委員

鴨川市は、その無形資産として、海は勿論のこと、山も有する絶好のポジションにあると思います。ただ、そのなかで、これまでの歴史的な経緯や現状を鑑みたとき、やはり海の魅力の方が比重としては大きいと判断できるのではないのでしょうか。その意味で、前原横渚海岸は、ターミナル駅からも至近であり、鴨川シーワールドや主要宿泊施設、亀田総合病院等も存在することも考えると、鴨川市の保有する「海」という無形資産の中心に位置づけられるべきエリアだと思います。

地域おこし協力隊 橋詰良子委員

鴨川シーワールドと並ぶ、鴨川市の顔。やはり、鴨川といえば「海＝前原海岸」という印象があります。都内から1時間半程度で来られる美しい海岸は魅力的で、ウミガメの産卵もあると聞いておりますが、そのあたりがPRされていないようで残念です。

安房土木事務所 吉田良治委員

前原横渚海岸や近くに鴨川マリーナ・鴨川漁港が隣接しており、海と親しめ潮騒香るエリアとしての機能がある。

3. 目指すべき前原横渚海岸周辺の姿はどのようなものでしょうか。

鴨川市観光協会 鈴木健史委員

海外の成功している海浜リゾートは、商店が全て海を向いています。フランスのラングドッグルション、アメリカのアトランティックシティのボードウォーク、台湾の淡水など、ビーチ沿いには遊歩道があり、遊歩道に面して商店等が並び、それらの店舗は全て海を向いています。お尻は向けておりません。歩ける所、そして歩いて楽しい所に人は集積することを忘れてはなりません。

鴨川は前原横渚海岸の裏の本町通りに商店は顔を向けており、海岸にはお尻を向けています。つまり、人が集積する要素が海岸に存在しません。一部、ノンキーカフェ等の飲食店が数軒、海に顔を向けていますが、これが本来あるべき姿だと考えます。この流れを作ってゆかねばなりません。

車が往来する道をメインにするのではなく、人が歩く道をメインにして、人が集うビーチの町づくりをしてゆくことが必要です。市民会館と市営プールの跡地はまとまった土地として商店等の人が集まる要素を作ります。イメージメイカーとなるお洒落な店舗については市外から誘致することも必要でしょう。

現状、フィッシャリーナは単なる空き地になっており、人が集う要素が全くありません。ここに人が集う施設を誘致します。商店や飲食店、道の駅、市場（マルシェ）、サイクリングステーション等が挙げられます。（単に公園を作っても人が集う動きのある町づくりをしないと人は集まりません。）

マリーナから旧市民プールまでをひとつの流れとし、更にはその延長線において潮騒市場、鴨川グランドホテル、鴨川シーワールド、そしてマルキポイントまでを同一イメージでつなげてゆきます。各施設には海岸線に顔を向けた（お尻を向けるのではなく）施設運営を要請し、協力を仰ぎます。その海岸線を人が楽しみながらウォーキングし、ジョギングし、サイクリングし、流れる仕組みを作ることが必要です。

ブランディング上必要なのが、途中にある産業廃棄物集積所の移転です。市が計画して移転の交渉を行うべきであります。

このような流れの中で、ビーチに面した町づくりが進めば、ノンキーカフェのような店舗は自然に増えるでしょう、その仕掛けを今回のプロジェクトで作り上げることが必要です。線としてつなぐためには、私有地についても再開発に協力を仰ぐことも必要です。協力しないと損であるという仕組みを作ることが大切です。

これまで過去に幾度となくこのようなプランは考えられたことを聞いております。どうして実現しなかったのか？を考えると、それは数百億円もかかるような壮大なピクチャーを描き、絵に描いた餅だったからだと聞いております。経済的にも、権利関係においても、実現可能なプランを作らねばなりません。

ん。現在、店舗を作るに当たっても、スモールハウスやエアロハウス、テント生地の建物等、お洒落で、素敵で、経済合理性の高い建築様式が沢山あります。安い投資であれば、安く店舗を貸し出せます。また、上質な日常を提供するためには外部資本を誘致することも必要かもしれません。実現可能なプランが必要です。

最後にイメージの統一についてですが、各々の店舗がバラバラなイメージ感を持って出店するのではなく、統一されたイメージ訴求をしてゆかねばなりません。箱根は町の看板は白と茶色に指定されています。海岸の遊歩道に面する店舗の看板には一定のイメージ統一が必要であり、既に存在する店舗については看板デザインの助成をする等で、統一されたイメージ造成が必要だと考えます。それが前原横渚海岸エリアのブランディングに大きく役立ちます。

鴨川市観光協会 藤巻武仁委員

- ・安心安全なリゾート感覚で訪れられる場所。
- ・観光客がより過ごしやすくまた来たいと思ってもらうことが大切だと思う。
ホテル、レジャー施設、カフェ等を充実させるべき。
- ・「旅の目的は美味しいものを食べること」だと思うので、海の近くに「漁協直営食堂」的な食事ができる施設を作り集客を図る。
- ・周辺道路や駐車場の確保、整備。

鴨川市商工会 清水宏委員

(前提)

・鴨川市全体に言えることは、「都市計画」のビジョンに基づき検討すべきと思う。町の歴史的な発展の経緯を振り返っても、この地域は、磯村地区の漁村から発展し、水産加工業も振興し、前原・横渚地区の商業・観光地区へ。ＪＲ駅前の賑わいから、国道１２８号線バイパス開通による横渚・東条地区への大型商業施設・観光施設誘致や鴨川有料道路開通による花房・西条地区への商業化やそれらの後背地の宅地開発が進み現在に至っています。

・鴨川の町の発展が道路・鉄道等の交通アクセスの変化によって進んだため、商業地・観光施設・水産加工製造地区・住宅地や農地が混在し、各々の産業ごとに種々の制によりその発展に際し、身動きが取れない状況を招いています。そのため、暮らしやすい、安心・安全な閑静で買い物や福祉にも優しい歩いて移動可能な、旧小学校区程度のエリア単位の風紀住宅地区。観光を中心とした賑わいのある、歓楽街的な地区。交通アクセスの利便を伴った商業地区。海浜・自然が生かされた、公園・スポーツ地区や学びや研究のエリアとしての文教地区等のクラスター化を進める都市計画により、各々の活性化を図る必要があるものと思えます。

・当然、将来にわたっての町のビジョンをしっかりと地域住民を交え作り上げ、計画性を持った地域開発を進め、住民が楽しく幸せを実感し、安全安心な暮らしができる町を作ることが第一優先で、人口を減らさない根幹であり、人的資源の担保が各々の産業を支えることにつながるものと思います。

・観光客や流動人口の誘致のための施策は、二次的なものであり、しっかりとした優先順位付けを確立し、ビジョンにのっとり人的・経済的(予算)な計画を立案したいものです。そのため、住民や行政はまちづくりで「何をしたいか」「どこを目指すのか」を今回はっきり決め、この事業は「誰がやるのか」を明確にすることだと思います。

鴨川市商工会 福田雄一郎委員

・家族連れ、カップルの海水浴だけでなく、海に入らなくても立ち寄れるようなお店
浜辺で遊べるアクティビティの充実

鴨川市漁業協同組合 徳山英樹委員

・周年を通して観光客が訪れられる様な観光地づくり。

鴨川温泉旅館業協同組合 久根崎達郎委員

JR 鴨川駅より海岸に向う導線の整備。(海水浴場を駅正面に移設)

駐車場の整備と現市民会館の有効活用。

海離れが進む現状、プールを活用した海水浴場。

市営の日帰り温泉施設の整備（海が見える温泉施設）

夏場だけでなく、四季を通じて魅力あるイベントで集客があり、市内旅館、ホテルと一体となった観光地として認知される。

鴨川ライフセービングクラブ 水谷好伸委員

・鴨川市の顔 中心でなければならない

商業地域の再生

※商店街の復活(海の商店街)

※飲食店&呑み屋(居酒屋&屋台(スナック&バー)海鮮食堂
の地域づくり

鴨川シーワールド 齋藤哲二委員

・前原横渚海岸は年間を通してサーファーは多く見受けられますが、「サーファー以外のお客様」も年間を通して楽しんで頂く姿が理想かと思います。

一番の理想は「湘南」のように、多くの人に認知され、更に一年を通して多くのお客様にお越し頂く海岸かと思います。

鴨川青年会議所 菅原 明善委員

テーマを決めたらブレずに海岸の統一感と世界観を演出すべきだと思います。

集客力のあるプロムナードの改変や、至る所で耳にする、「鴨川らしいおみやげがない」を改善できる建物を立て、それがシンボルとなるようにブランディングする。

市民会館跡地の再利用法を考えた場合、ここに来れば鴨川らしいものが「食べられる」「買える」「感じれる」を満たせる建物があればいいなと感じます。

例えば、1Fには鴨川のおみやげブースが並び、海に面した所にはカフェ。(サーファーもそのままの姿で立ち寄れる様なスペースがあれば尚いい)

鴨川でしか飲めないドラゴンフルーツのドリンク（栄養価だけでも素晴らしい）など。

おみやげも現状鴨川にある物でも、パッケージを変えたり、鴨川の統一ロゴを入れたりとブランディン

グして並べるだけでも観光客には効果があると思う。

オルカ鴨川 FC のグッズや鴨川のイベントや観光スポットも分かりやすく掲示する。

2Fにはレストラン。3Fは展望テラス。夏にはビアガーデン。

現在のプールの場所も駐車場として活用し、ここで買い物や食事をすれば無料にするなど、観光客やサーファーにお金を落としてもらう仕組みが必要だと思います。

食に関しては、しっかりとした定義付けされた料理で、例えば「海鮮丼で具材はこれとこれを必ず使用する」と、テーマに沿った料理を提供する。

基本的にはどこのお店で食べても同じ満足感だが、お店毎にルール内でオリジナリティを出した「第2のおらが丼」があればいいと思います。

「目指すべき前原横渚海岸の姿」というテーマからは反れたかもしれません。

誰でも考えつくような稚拙な内容で申し訳ございません。

鴨川ライオンズクラブ若獅子支部 立野健児委員

海岸沿いはきれいに整備されているので今後は、広くてアクセスしやすい駐車場の確保が必要なのでは？

又、町中をブラブラと散策や食べ歩きなどができるようにしたら、もっともっと観光客を呼びこむことができると思います。

(イメージとして鎌倉や川越、軽井沢などなど)

鴨川サーフィングクラブ 川井幹雄委員

カリフォルニアのハンティングビーチにある様な栈橋を作ったら海側全体が変わると思う。

サーフィンに適した波を造り出したら世界中から人が来る。(コンテストが開かれる)

オリンピック候補になると思う。

鴨川市健康づくり推進協議会 村永信吾委員

自然が引き立つ街

単なる自然だけではなく、道路等の整備を図る。

健常者のみならず車いすなどでも運動できるコース整備を進める

体を動かす編

- ・海岸コース
- ・魚見が岳コース
- ・嶺岡丘陵コース
- ・鴨川街探索コース
- ・鴨川沿いから総合運動場までの川沿い探索コースの整備
- などのコースの整備を進め老若男女そのコースで運動しているイメージ

おいしいもの編

- ・鴨川の海の幸や山の幸の紹介
- ・海を見ながら海の幸を味わえるスポットが必要

リラックス編

- ・ホテル群での宿泊や温泉など癒しの旅

メディカルリゾート編

- ・健康チェックとリラクゼーションを組み合わせるサービスにより国内外からの集客を図る

鴨川ガイド協会 原田洋美委員

ファミリー向けの海水浴場。

- ☐駐車場の拡大 ☐駅からの歩道の充実 ☐無料の更衣室・シャワーの拡大
- ☐防犯面の充実 ☐周辺店舗の充実 ☐昼間のイベント
- ☐DJ ラジオブース（前原横渚海水浴場の今を配信※bayFM との連携）
- ☐大型ショッピングセンター ☐無料開放の公園の拡大 ☐大型プールの充実
- ☐泊まりたくなるようなホテルの充実 ☐シャトルバスの充実 ☐栈橋

城西国際大学観光学部 渡辺淳一委員

観光地としての最大の競争力は、地域全体での「住んでよし、訪れてよし」を具現化することである。その意味でも周辺地域に市民を含めた多くの人々が魅力を感じ得るようにすることが肝要である。その具現化は、そこに住む住民との協議と協働が不可欠となる。したがって、地域の現状把握と法的及び技術的な検討等をコンサル中心に行い、住民との対話が行うという長期的な展望と海岸整備という比較的短期的な計画での策定と実施が求められる。

城西国際大学観光学部 内山達也委員

「癒しのリゾート」を体現する空間を目指してほしい。そのためには前原横渚海岸でゆっくりとくつろげる空間を創出する。現在の海岸周辺の商店は、新規のファミリー層は身構えてしまうような雰囲気がある。まずは、新規の来客層が手軽に入れるような雰囲気作りと、ビジターセンターのような施設が必要であると考えます。つまり、「誰もが立ち寄れる空間・施設」が必要であると考えます。

文理開成高等学校 鈴木淳委員

鴨川市が将来長きに亘り発展していくためには、日本だけでなく、世界中（特に中国を含めたアジア諸国）に対してアピールできる魅力を保有することが不可欠となります。そのような世界中に対してアピールできる魅力を持った先行事例として、鴨川市はスイスをベンチマークにするのが良いのではないかと考えています。

スイスは長い歴史のなかで、貧困にあえぎ、中世においては傭兵の派遣することで外貨を獲得していた国でありました。それが今では、金融と精密加工産業、医療産業と学校教育（インターナショナルスクール）によって世界中からヒトとカネを呼び入れ、最も裕福な国に変貌を遂げているのは周知の事実です。

では、これらの鴨川市へのインプリケーションを考察しますと、人工知能が主役となっていく時代が見えてきた現代においてもはや斜陽産業となる金融は鴨川市が柱にしても面白くないですし、精密加工産業やITを目指すのは競合都市も数多く、ハードルが高すぎるように思います。そのなかで、医療と学校教育については、可能性が十分にあると私は考えています。医療は亀田総合病院グループがあります。学校教育は県立高校の雄たる長狭高校と僭越ながらわが文理開成高校があります。

私の考える将来の前原横渚海岸周辺の姿というのは、世界最高品質のエンターテインメント（鴨川シーワールド）、宿泊&食事（鴨川館、鴨川グランドホテル、お寿司等の日本料理）、そして世界最高品質の医療サービスと学校教育を求めて世界中から比較的裕福な人々が集積する場所であるということです。イメージとしては、ハワイのワイキキにスイスの良いところを足して2で割ったような場所です。

地域おこし協力隊 橋詰良子委員

前原海岸は、海岸線の景観やゆったりしたムードが魅力ですが、その魅力をこれから（＝若い人たち）の感覚にフィットさせつつ、わかりやすく意思のあるコンセプトを持った街づくり・活性化を行うことが今後の継続的な発展につながるように思います。ex.ナチュラリスト志向の街づくりなど。

安房土木事務所 吉田良治委員

ボランティアによる海岸清掃等による、海岸愛護の啓発活動の推進。

4. 目指すべき姿を実現するために、どのような取組みが貴団体あるいは個人において可能でしょうか。

鴨川市観光協会 鈴木健史委員

鴨川グランドホテルとしては、海岸線に向けたエントランスを作り、レストランやカフェを海岸線から利用できる形に改装することなどは協力できます。また、同じ海岸線に位置する近隣施設と連携を図り、お互いの相乗効果を強く出し合う等に努力致します。

全体の青写真を作るに当たり、これまでのリゾートの経験を活かして、最大限ご協力致します。

鴨川市観光協会 藤巻武仁委員

・提案

（弊社での取り組みというわけではないが）目指すべき姿を具体化しないと取り組みが出来ないと思うが、問い3のリゾート感覚で言うならば周辺の建物の色の統一化、安全安心で言うならば周辺の照明の増設。

鴨川市商工会 清水宏委員

・商工会として、基幹地場産業である一次産業の農林漁業資源を活用した歴史文化に根差した事業化やブランド化の促進。鴨川に来なければ味わえない・手に入らない等による来訪者の誘客に結びつく流通の工夫とおもてなしのスタイルの確立支援。

・「地元企業が成長できる環境づくり」のため、成長志向の強い地場中小企業に的を絞って支援し、成長を促し地域雇用を改善させ、民・学・官の連携の橋渡しの役割を担う。

・高齢化・独居化する地元消費者の生活支援のため、居住区単位の買い物弱者・介護支援の官民連携の支援事業化の受け皿養成による地域活性化支援。

・地場産業の後継者育成による事業者の減少防止と(企業誘致や再開発より)空き家(空き店舗)活用による賑わいづくりのための、街づくり組織を立ち上げて、新規参入事業者として40歳代の中堅世代の住みたい街を創り地域活性化支援を行う。

・都市計画による産業・情報・交通インフラ整備に基づいた、活用できる人材育成支援を担う。

鴨川市商工会 福田雄一郎委員

- ・具体的にどこから手を付けていいのかわからない。

鴨川市漁業協同組合 徳山英樹委員

- ・水産分野での出来る範囲での協力

鴨川温泉旅館業協同組合 久根崎達郎委員

前原横渚海岸の魅力を宿のHP及び季節リーフレット等で積極的に周知し、鴨川全体の集客の底上げに貢献する。

鴨川シーワールド 齋藤哲二委員

当施設（シーワールド、シーワールドホテル）にお越し頂いたお客様に「前原横渚海岸」を知って頂くように、パンフレット、ポスター等でのPRを行うことは可能。

鴨川青年会議所 菅原明善委員

個人はもちろん、会員負担の事業費だけの青年会議所だけでは実現は難しいと思います。

各団体や市が一丸となって取り組む事でブランディングは完成すると思います。

しっかりとした定義を作り、周知させる事が必要かと思います。

こういった会議などで意見交換し、決まった目標に協力して行く事は我々にもできる事はあるはずです。

鴨川ライオンズクラブ若獅子支部 立野健児委員

ライオンズクラブ若獅子会では、毎年、まるゴミクリーン活動に参加しております。

今年の8月には前原マリノードの歩行者天国にも参画させていただきました。

今後もこのような清掃活動や鴨川市を盛り上げるイベント活動には積極的に参加したいと思います。

鴨川サーフィングクラブ 川井幹雄委員

カリフォルニアに視察してみてください！！

個人は無理です。

鴨川市健康づくり推進協議会 村永信吾委員

・温暖な地域を強みに、冬場や春先などに高齢者等の健康滞在型のツアーや鴨川日帰り癒しツアーなど旅行会社と提携して促進する。

・鴨川の名所を紹介する携帯アプリの開発

・鴨川おらがどん、グランプリを海の日に開催など（どこのおらがどんがうまいか投票）

年に一度の開催にて各店の技術の向上を図る

・鴨川砂浜ロードレース 前原海岸一東条海岸砂浜マラソン

その他（本件とはやや趣旨が異なるが以下の提案をしたい）

個人的な意見として

①首都圏高齢者（特に要介護者）受け入れ施設の整備（特区）

例) 杉並区が静岡県(南伊豆)に移住型の特養計画を進め自治体間の交流を図る。2016 年開設予定
<http://www.city.nankoku.lg.jp/download/?t=LD&id=3529&fid=21178>

当鴨川も温暖な気候で、東京から 2 時間と非常に恵まれた環境に加え、
医療及び福祉が充実している。

鴨川ガイド協会 原田洋美委員

美しい海水浴場維持推進に向けたごみゼロ運動の参加
様々な海でのイベントへの参加

城西国際大学観光学部 渡辺淳一委員

長期的な展望において、地域にある大学がはたす役割を大きいと思う。また、その関与によって、鴨川市にある大学だからできる学生への教育が具現化できることは大歓迎である。ただし、その実費への予算措置は是非お願いしたい。長期的な展望において、地域にある大学がはたす役割を大きいと思う。また、その関与によって、鴨川市にある大学だからできる学生への教育が具現化できることは大歓迎である。ただし、その実費への予算措置は是非お願いしたい。

城西国際大学観光学部 内山達也委員

「癒しのリゾート」を体現するにはダイナミックにまちづくりを行う必要がある
と考える。現時点での具体的な取り組みについては浮かばないができる限り協力したい。

文理開成高等学校 鈴木淳委員

今のわが国において地方自治体でも民間企業でも、将来のことを考えるときの最も重要な要素は、リーダーシップを取れる人間がいるのか？ということと、そのリーダーが世界的な視座を有しているのか？ということです。幸い、亀田総合病院グループには亀田理事長を始めとする世界を知る素晴らしいリーダーがいっぱいいます。また、文理開成学園を代表する私も鴨川市のためならば、これまで経験してきたことを全力でアウトプットして貢献したいと思います。私は帰国子女であると同時に日本人として最高学府に学び、天下国家の観点からビジネスを考える日本興業銀行で厳しく鍛えられ、米国のトップビジネススクールで視野を広げ、日本を代表する起業家である三木谷氏や柳井氏の薫陶を得て交流を深めてきました。そして 6 年前から「より良い学校教育の実践によるわが国将来の更なる開化」を人生のテーマに掲げ仕事してきた人間です。

また、文理開成学園としては鴨川市で 90 年近い歴史を有する伝統ある学園との自覚を持って、スイスに見られるような世界中から優秀な子供たちを集めるインターナショナルスクールの設立を軸に貢献してまいりたいと思います。もちろん、前提条件となるべきものは多数ありますが、学園としては、このようなビジョンで以て鴨川市に貢献していければと考えています。その場合は、新しい施設や校舎の建設が必要になりますし、現校舎の近隣における土地の確保も必須となってまいりますので、改めて色々とご相談させていただければ幸甚に存じます。

地域おこし協力隊 橋詰良子委員

・これからを担う世代の意見をまとめたご提案

移住して半年程度ですが、地域おこし協力隊活動とは別に、住居（待崎橋付近）周辺に、同世代の友人・知人を多数持つことができました。プロフィールは、移住者・鴨川出身者交えた 40 歳前後が中心で、それぞれに専門知識を持って鴨川で活躍、自分自身の足場をしっかりと固めたうえで、前原海岸を含む鴨川市の発展に協力的な方々です。そういった方々の意見の取りまとめや、それらを元にしたご提案はお手伝いできます。

・メディア PR、コンセプト設計

これまで紙媒体を中心に、広告・雑誌分野の制作を経験してまいりましたので、PR 分野のお手伝いは可能です。

※協力隊活動の一環として、鴨川市・四方木地区の HP が間もなくできあがりますので、必要があれば、四方木地区のプランを例に取ったご説明はできます。

安房土木事務所 吉田良治委員

前原横渚海岸及び広場東海岸の海岸漂着物（大規模なもの）の撤去等を実施し、鴨川市と協働し良好な海岸景観の維持に努める。